

<p style="text-align: center;">国語科</p>	<p style="text-align: center;">「二つの意見から」</p>	
<p>知的障害学級 6 学年</p>	<p>実施の時期 実践者</p>	<p>平成15年9月 鳴瀬町立小野小学校 佐々木 優子</p>

### ○児童の実態

- ・国語の教科書の音読は何とかできるが、内容を読み取ることは難しい。
- ・調べ学習において、自分のテーマを決めたり、自分で資料を選ぶことは難しい。
- ・日常の生活において、新聞を読んだりニュースに興味を持って見ることは少ない。

### ○実践の内容

国語科「二つの意見から」の単元において、片仮名の使われ方について調べ学習を行った。「日本語に直すと意味が通じにくい片仮名」をテーマとして、新聞の広告欄などの中から探してみた。

### ○実践を通して

児童にとって、新聞とは家の人を読むもので自分とは無関係のものという意識だったが、NIEルームができ、授業や休み時間に利用するようになって、新聞を「手に取る」「見る」ことで、自分の身の回りにあるものという意識を持つようになってきた。

また、新聞を蓄積していくことで、調べ学習においては膨大な情報量の中から必要な情報を選択できる、身近な話題から調べられるというメリットがあると感じた。

小さな文字を切り取る、のりをつけて紙に貼るという動作では、丁寧に作業することの大切さを指導することもできた。